

社長の経営哲学の構築にお役立ちする

税理士法人 優和

経営者への活きた言葉

TEL 03-3455-6666
FAX 03-3455-7777

経営者への活きた言葉

経営で大事なことはバランスシートと公私の区別 岡田 卓也（イオン名誉会長、相談役）

1. 私はずっとバランスシートを重視し、公私を厳しく区別することを経営の根幹にしている。私たちは倒産を経験した企業の立て直しにも関わってきたが、そこで感じたことの一つは、やはりバランスシートの問題である。倒産する会社は、過剰な債務を背負っており、バランスシートが崩れている。
2. もう一つは経営者に公私の区別がないことが散見されることだ。公私の区別が曖昧になり、倫理観が崩れてくると、人も企業も駄目になってしまうとつくづく思う。
3. 私の経営観にもう一つ影響を与えたのはビスマルクの「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」という格言である。そこから私は「企業の歴史は合併の歴史」と考えるようになった。江戸時代から7代続いた岡田屋を、フタギ、シロという2社と合併させ、1970年にジャスコを発足させた。ずっと大事にしてきたのは「心の合併」。文化が違う仲間を平等に扱うことが成功のカギになる。

（参考：「日経ビジネス」2018年10月8日号）

海外事情

インドのM&Aが過去最高

1. 急成長を続けるインドが空前のM&A（企業の合併・買収）ブームに沸いている。「インドは2000年当時の中国」との見方などから、海外の有力企業や投資ファンドが大型買収を繰り返しているのが、一因だ。インド企業絡みのM&A案件は今年に入って過去最高のペースで推移し、ここにきて1000億ドル（11兆円強）の大台に乗せた。米経済通信社ブルームバーグの集計によると、9月上旬までに1045億ドルに達し、年末を待たずに過去最高（昨年938億ドル）を更新している。
2. 焦点になっているのが小売業だ。最大の案件が、米ウォルマートによるインド電子商取引大手フリップカートの買収である。金額は160億ドルで、外資によるインド企業買収としては過去最大となった。ゴールドマン・サックスによれば、向こう10年以内にインドは1人当たりGDPを倍増させ、新興国の中で最も力強い成長を遂げるといふ。

（参考：「週刊ダイヤモンド」：2018年9月29日号）

ワンポイント経営アドバイス

リーダーに必要な正義感と品位、大局観

藤田 浩之（米国商務省長官顧問を歴任）

1. リーダーには正義感と品位、そして大局的な視野が欠かせない。私は、経営上何かを判断するとき、「Big Pictureは何か」と常に問うようにしている。なぜなら優先順位の低い枝葉末節に囚われ、大きな全体像を見失うことによって企業は進むべき方向を見誤るからだ。
2. グローバルゼーションは止められない。インターネットやSNSの進化速度を見てもわかるが、今や世界中で起きていることが、また様々な情報が瞬時に誰にでも届く。人の交流もそうだ。私は米国でこんな保護主義の傾向があるときこそ、世界的視野に立ち、リスクを分散させる。言い換えれば「チャンスを最大化」する必要があると思う。

（参考：「Wedg e」2018年11月号）

古典に学ぶ

孔子の立志

（解説）自分が平素、処世上の規範としている論語を通じて孔子の立志をうかがうに、「十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知る云々」とあるところより推測すれば、孔子は十五歳の時既に志を立てられたものと思われる。

（参考：渋沢栄一「論語と算盤」：国書刊行会）